

# 市中心部のグラウンドデザイン素案



広島県三原市：市中心部活性化プロジェクト  
報告書

TEAM HAMANO

浜野 安宏

環境計画スタジオ

橋本健

高山美紀

### 三原市は水際生活都市

日本の世論、一般常識が方向感覚をなくしています。大手広告会社やマスコミ操作の下にあることが露呈し始めて、「観光立国」という目標も、実際インバウンドが増えてきて、やっと覚醒し始めたようである。しかもその外来者は「観光」ではなく「生活」を求めているのである。

世界の山川、海辺に近接する都市が脚光を浴び、生活したい場所とされ始めている。しかも「ウォーターフロント」水に表を向けて水と親しんで生活のできる場所を求めている。サンアントニオ、ナポリ、ヴェニス、バンクーバー、横浜ポートサイド、神戸、サウスストリートNY、ベンド、アムステルダム、築地、上海、香港・・・

三原市は水に開き、水とただある幸せを感じて生きる生活地として、水から再生していきます。初めて三原ゆかりの人々にお会いした時、駅勢圏の真ん中に城跡、堀、川、海、港があることに気づき、それらの水環境が全てリンクできることに驚きました。しかもそのことが工業最優先社会で忘れられていました。「これは大きな宝物になる」と思いました。



市中心部の再生、創成のテーマを「水と在る街—三原」

三原水際生活都市  
濠から港へ生活回遊動線を巡らせる。



小早川隆景の熱き想いを継承します。彼は城の位置を決める時、港との関係をヴィジョンの中に組み込んで考えたはず。旅人にとっても、生活者にとっても第1番の興味は「1にView 2にビュー、3に眺望」です。中でも水とともにある最大の中心は駅の北側に残された堀跡です。これを単純に公園とせず堀沿いの飲食店、カフェ、ブックストアなどを誘致します。この流れを鉄道高架の下部につなげ、延伸して港までつなぐ、大きな回遊動線にします。

三原、三拠点「濠・駅・港」をつなぐことによって三原の核心部分が生まれます。水のある風景への旅は最重点を置くべきテーマです。

三原の開発再生は全て、水から始まります。「水とどのように関わるか？」と問いかけます。港に面した中低層の商業、居住コンプレックスはスカイラインを規制して、それぞれの開発は現代の若手商業デザイナー、建築家に仕事を競わせます。湾に面した埋め立て地などは、世界的な病院を誘致、特区にするなどして人が長期に滞在したり、移住したくなる要素を集めます。

水から、一步、一步、立ちあがる都市  
豊かな資源、新たな視点。  
ゼロからワンを生み出すではありません

三原は天然の水際都市でした。小早川隆景は水と島々の風景を生活の場として、天然の要塞として認識していました。現在残されている堀や城壁跡からそのことが読み取れます。テーマパーク的なコピーでもなく、工業都市的なよそ見でもなく、いわゆる観光という大衆目線優先でもない。オリジナル・ワンを創造することが小早川の志を繋ぐ次世代の地域づくりであると確信します。三原の穏やかな環境は、ごく自然にNEW ONEを生み出せる要素に満ちています。積極的な提案を行い。投資価値、顧客価値を生み出し、新たなONLY ONEを見出します。

住みたい場所に選ばれるのは  
働く場所の近くではなく、生活したい場所の近くになっています。

「何処に住みますか？」  
すでに20年以上前から、アメリカの大学生が卒業する時、友達の間でこんな問いかけが行われていました。工業社会では、本当に在りたいライフスタイルよりも「いい会社」に就職することが最大の関心事でした。  
これからの地方都市が目指すのは他のどこにもない魅力の創出です。



### 世界の住みやすい都市ランキング>

ざっと見てこのようになっています。  
ほとんど海に面するか川が流れています。そして成熟していて、文化度が高い都市です。

- 1位 東京 2位 ベルリン 3位 ウィーン
- 4位 コペンハーゲン 5位 ミュンヘン 6位 メルボルン
- 7位 福岡 8位 シドニー 9位 京都
- 10位 スtockホルム 11位 バンクーバー

移住定住が進んでいる沖縄、バンコック、クアラルンプール、シンガポール、スリランカなどありますが、三原が移住、定住を大きく政策に掲げて特別の地域を創造することも可能です。

## 水的生活 water front life

一： 三原城跡歴史公園の整備を契機とする「浮城」を『水』へとつなぎ、水の城下町のイメージづくり

城濠への錦鯉の放流を契機とする水資源の景観活用。沼田川浄化センターの中水の再活用  
寸断されてしまっている観光ポイントを『水の記憶』でつなげる。....歩行者快適空間の再構成  
『船入櫓』『西館の濠』の水浄化、水景観の整備と「帝人通り地下水路」の活用  
『石垣』と「水」のモニュメント、記憶の想起・再発見/サイン・ストリートファニチャーへの展開

導入設備のアイデア>

石垣ウォーク/クリークウォーク/カープアクアリウム/シーオルガン/オープンスペース/ウォーターウォール/VR映像

## さざなみ波止場 ripple wharf

二： 駅から波止場へのセンターラインを強化、東館跡地開発とのリンク

三原港をコの字型に囲い、波と町と筆影山を望む400メートルのデッキウォーク  
新たな親水施設の導入。ポンツーン・港湾施設のリニューアル・駐車駐輪・サービス諸施設の整備  
フォトポイントを意識した新たなスカイラインの創造。風景との対峙。背景となる建築群には景観ガイドラインを導入  
観光客と市民との交流と出会いを促進。世代を超えた溜まり場づくり。複合商業施設

導入設備のアイデア>

水上バス・ヨット・カヤックによるアクセス&ツアー/ビジターバス/ランブリングウォーク/パフォーマンス広場/ライトアップ/花火/水上ステージ

## みはらマーケット MIHARA Market

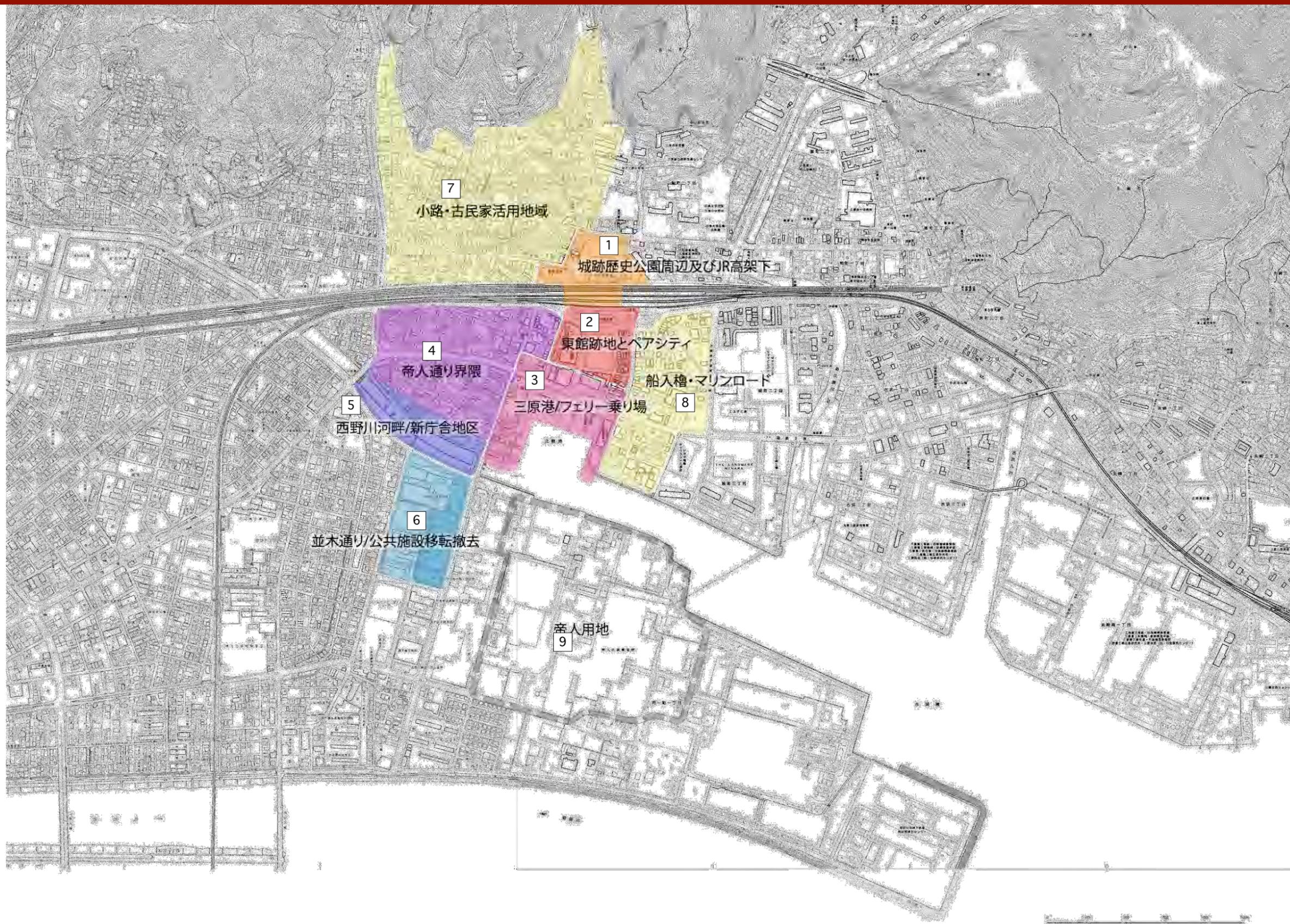
三： 人の流れを西野川の曙橋から南へと誘う施策の導入

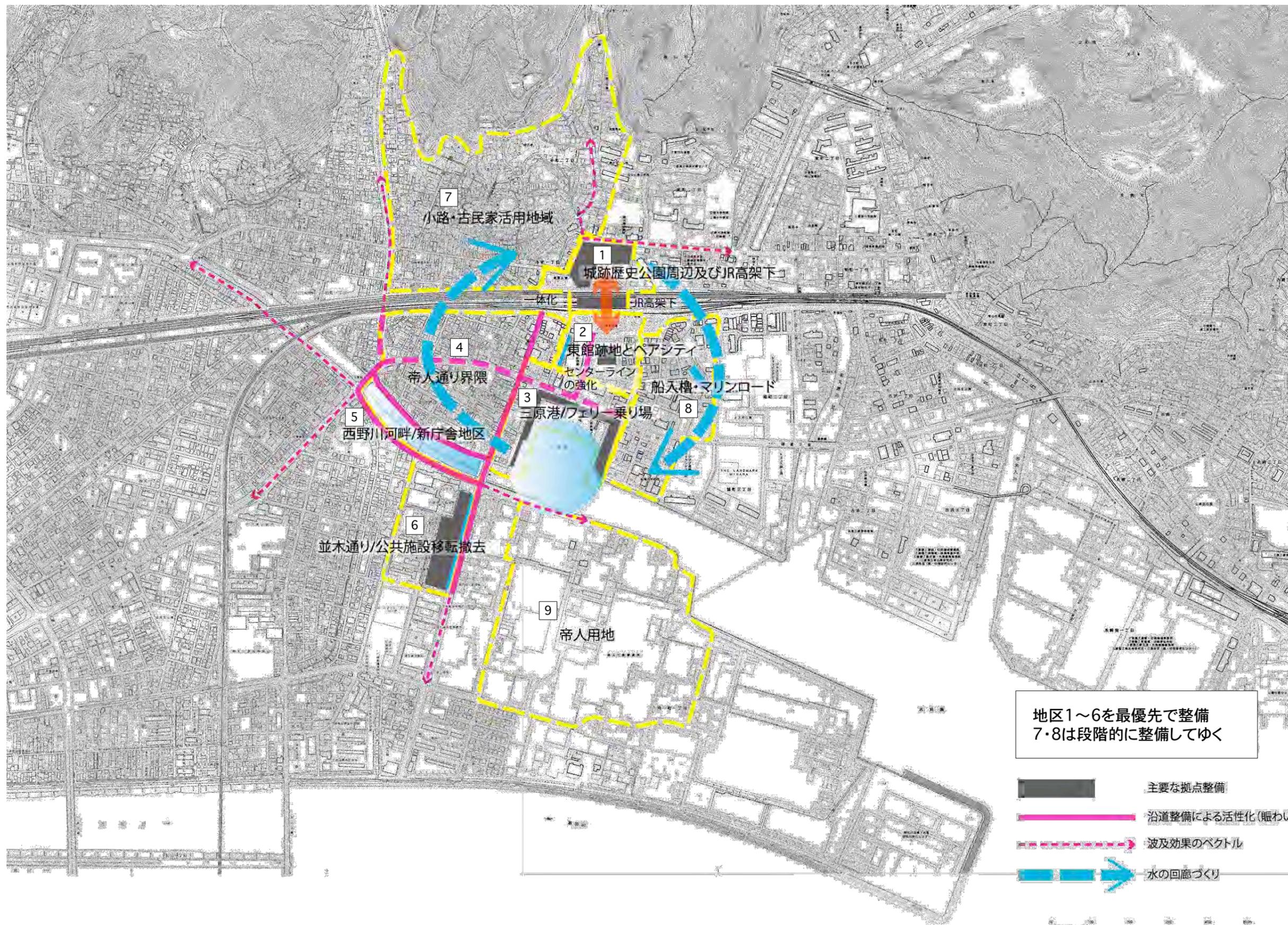
(芸予)地域の海の幸、山の幸、大地の恵みを一堂に集めた地域最大の即売所  
瀬戸内の海の幸と世羅町の農産、畜産を三原に集め定期市で即売  
屋外イベント会場の設置により新たなアクション・モチベーションづくり  
リージョンプラザ、小学校、保育園という立地に調和する世代間交流拠点の整備  
バリアフリー・ユニバーサルデザインの積極的導入(子供達/親達/お年寄り達)

導入設備のアイデア>

瀬戸内ヨットレース/国際ワイン祭り/収穫祭/たいたい市場/オーガニックマルシェ

竹原・尾道・世羅との連携を緊密化し地域一帯での来訪者誘致を提唱





沿道と拠点整備を並行して行うことで相互補完と一体化を促進させ、街並みを変えてゆく。

城跡歴史公園の整備とJR高架下の二つの連絡通路を一体的に整備し、通行の快適性を確保するとともに駅の利用を向上させる。

1

駅前の東館跡地に建設される市営図書館と複合施設誘致は、ペアシティ中央ロードの整備と並行して進めることで生まれる「軸」を三原港フェリー乗場の新たなデッキウォークと複合商業施設へとつなげる。これにより駅-港間へのセンターラインは強化され、同時に観光の目玉ができたことが様々なメディアで紹介されることから、来訪者が増える。

風光明媚で平和な瀬戸内の魅力に溢れた三原市を訪れた方の中から”こちらに移り住みたい”という人々に対し「受け皿がありますよ」という施策（建築計画とイベント）を打ち出し、人口減少への歯止めへとつなげてゆく。

2

浮城の名残をとどめる城跡歴史公園、船入櫓、西館の濠跡は、順次イベントと連動させながら、水質浄化と親水性を高める施策を試み「歴史的価値を持つ水景が市民の協力のもと身近な存在となるよう」改良してゆく。...『水の回廊づくり-1』

3

帝人通りは、通りの整備を優先させる。段差のない道路、ストリートファニチャー、照明オープンスペースなど地域性の素材、色、形態を積極的に採用し、建替えの際のイメージリーダーにしておく。

4

三原港とそれに注ぐ西野川一帯は、新庁舎建設により注目を浴びる。河畔の両側（臥龍橋-曙橋）を整備し、夜道でも安心して歩ける界限をつくる。帝人通りと直交する回遊動線は、人の動きを東西方向へと誘う。

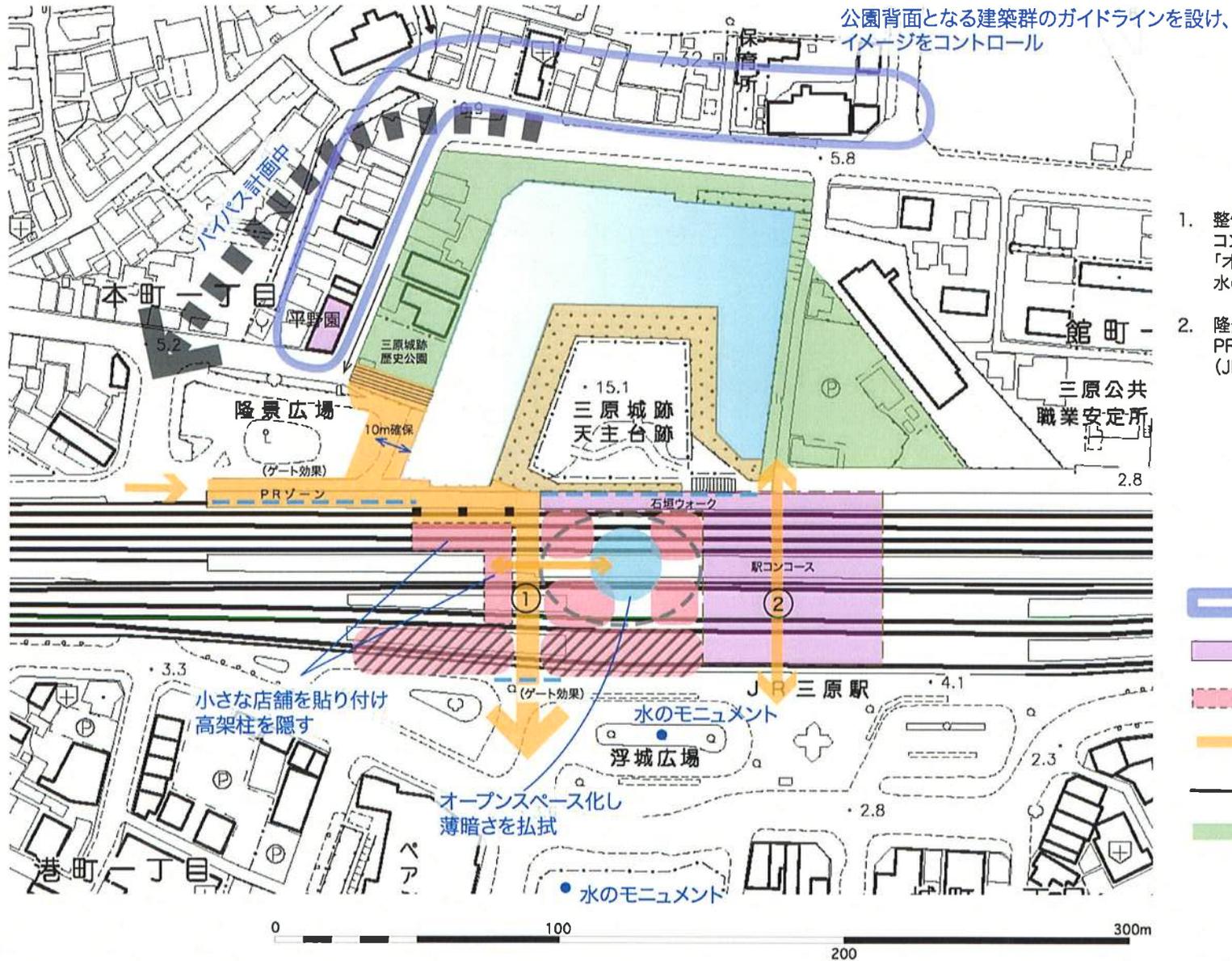
5

並木通りのゲートづくり。メタセコイアの並木が美しい界限をそのまま南へとつなげたい。この一体の老朽化建物を撤去し、並木と調和する低層建築群、クリークウォーク、オープンテラスなどを設け、世代間交流の場を生み出す。...『水の回廊づくり-2』

6

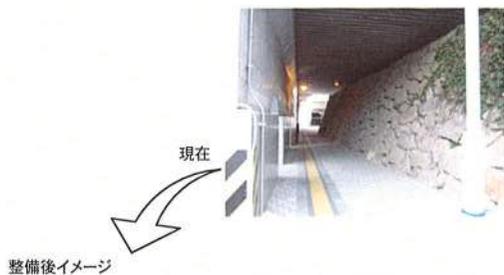
上記1~6を最優先としながら**将来に向け**整備をしてゆく。移住や定住の受け皿として古民家活用を2の「受け皿」と連動させる時は、地域住民との共生に配慮が必要なことからエリアを限定しつつ、試行が必要である。

7



1. 整備中の三原城跡歴史公園から三原駅コンコースに至る導線を改良、未利用部分に「オープンスペース」を設け、薄暗さを払拭。水のモニュメントを設置。「屋台村」を設置
2. 隆景広場から駅に至る導線イメージを改良。PRゾーンを設け、駅南への導線を強調する。(JR西日本との協議要)

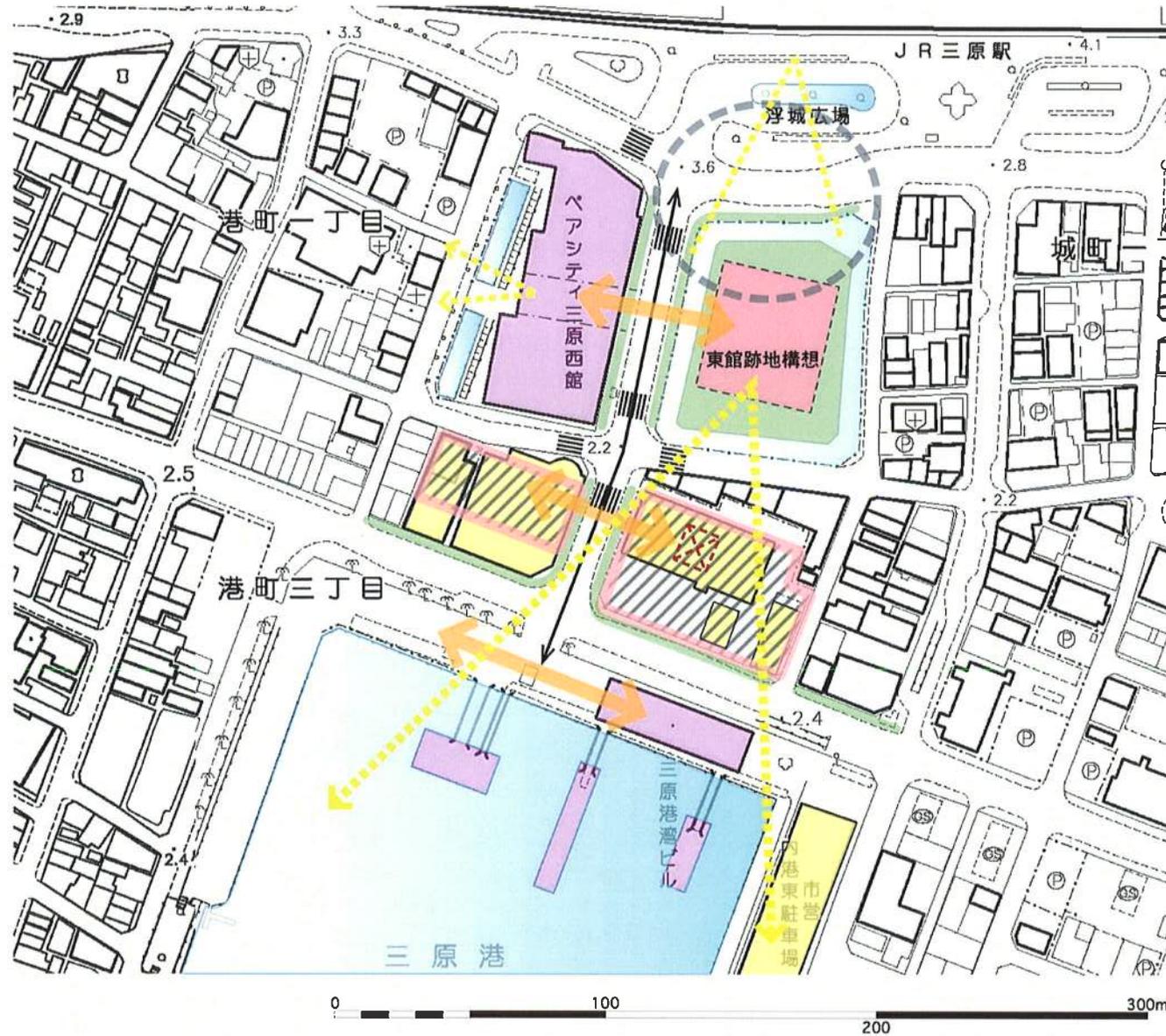
-  : 景観ガイドライン
-  : 既存建物
-  : 新築計画建物
-  : 歩行者専用
-  : 車専用
-  : グリーンベルト



駅に至る南北通路は片側のみ石垣で中途半端に途切れている



駅北エントランスのデザインを一新 (つながりを意識)



- ・東館跡地利用計画と並行して
- ・三原駅と波止場をつなぐ通りの整備を行う

- : 既存建物
- : 新築計画建物
- : 歩行者専用
- : 車専用
- : グリーンベルト
- : VIEW



駅と波止場を結ぶ  
センターラインの強化

駅から東館、波止場に至るペアシティ中央ロードの整備をコアとし隣接するマリンロード・帝人通りと一体的整備を行う



ストリートイメージ



駅から波止場に至るペアシティ中央ロードの整備/海への誘いを高める



NITタワーを解体移設するルートを検討すべき

### 景観ガイドライン導入による『水的生活』ステージづくり



三原港の特徴でもあるコの字型の入り江を活用。風景と対峙できるフォーカルポイント（注視点）をつくる



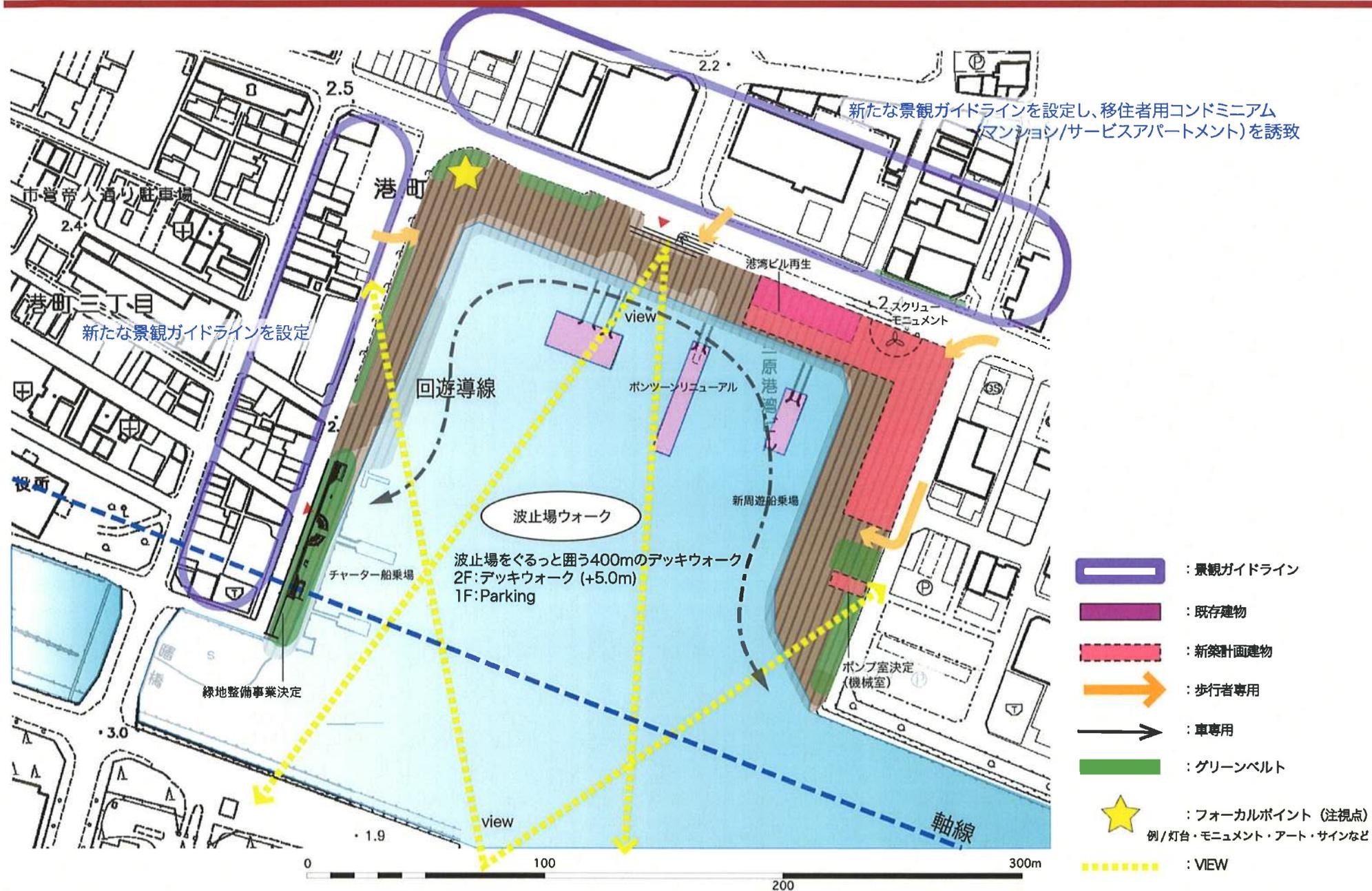
東側駐車場は撤去し、広く楽しく。  
新たな複合商業施設を導入し、港東の緑地とつなげる

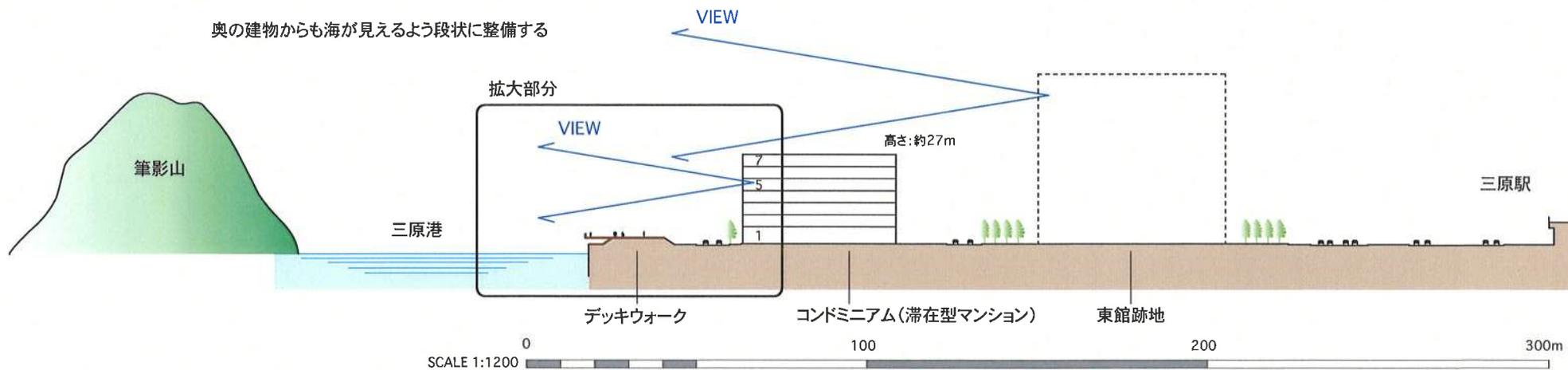
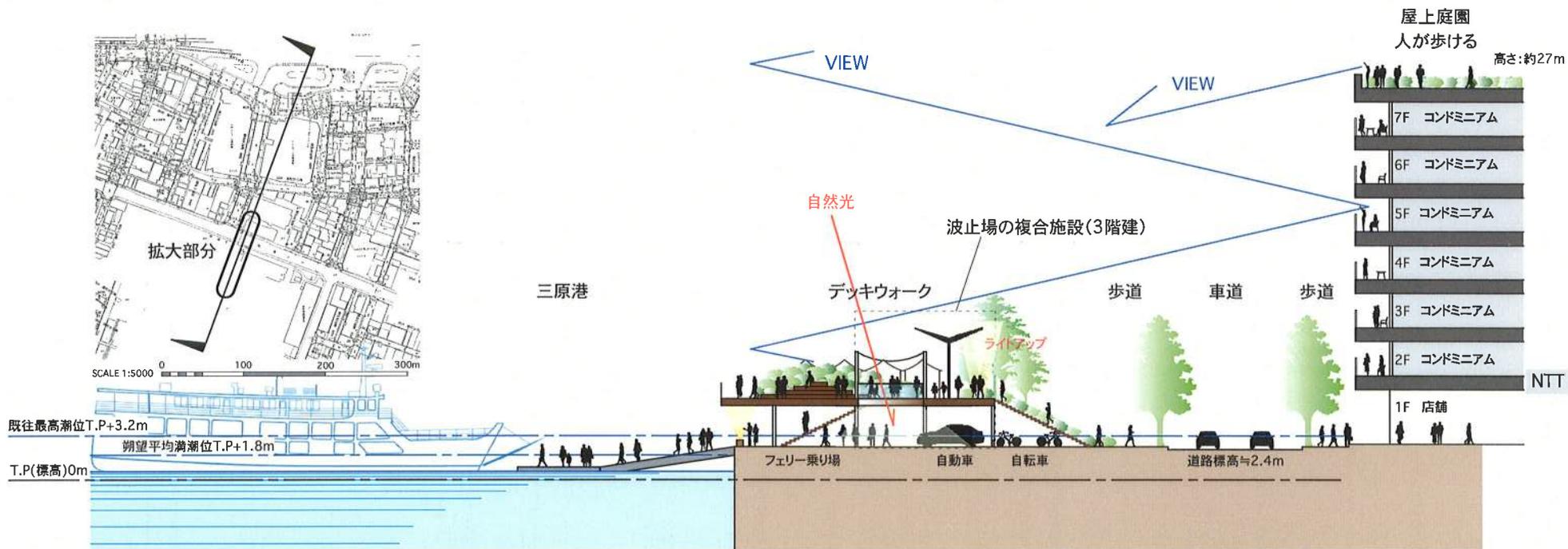


コンドミニアムイメージ



タウンハウスイメージ





4 帝人通り



寂れた帝人通りにも新たなMDで注目される店がある。  
駅から南へ至る通りは3本。それぞれを明確に区別化し、順次整備してゆく



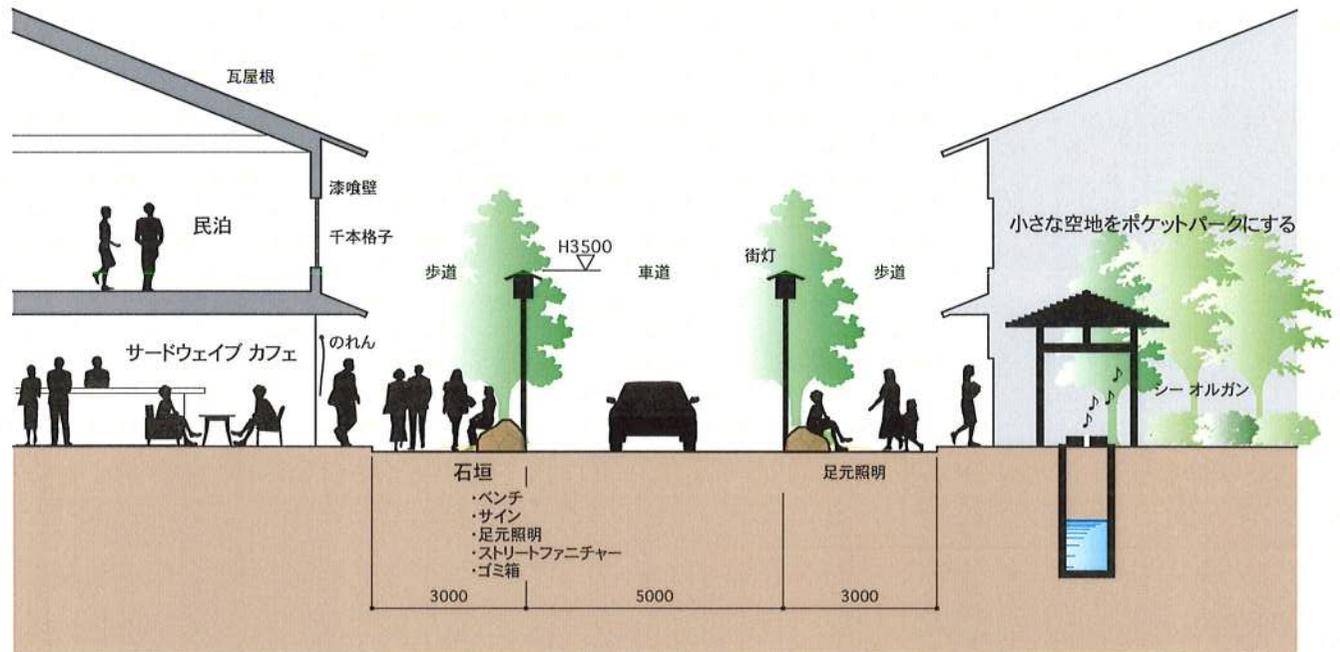
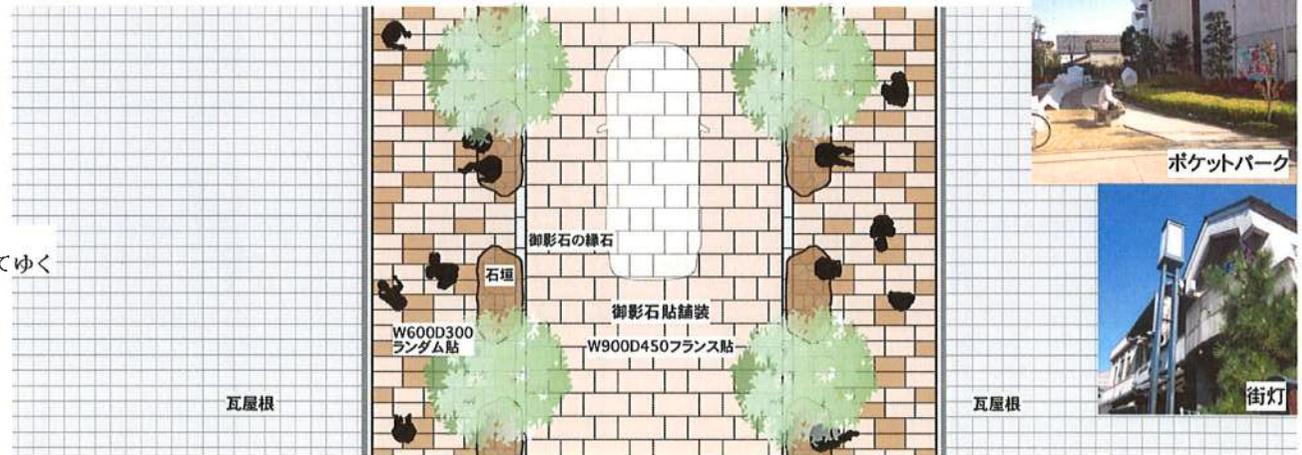
民泊



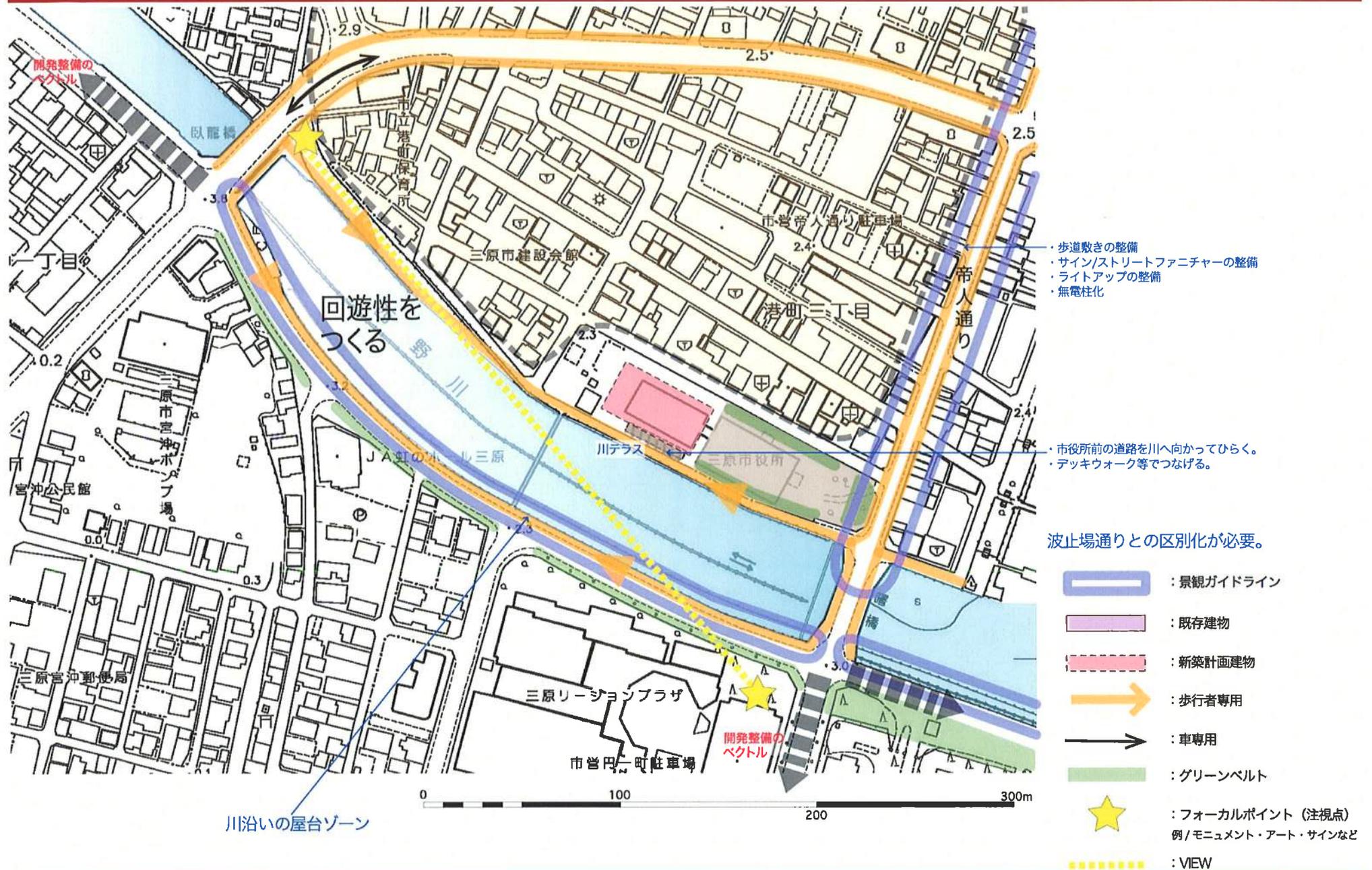
サードウェイブ  
カフェ



伝統的な町並みをイメージし、それにふさわしい「通りづくり」を目指す



SCALE 1:100 0 10m



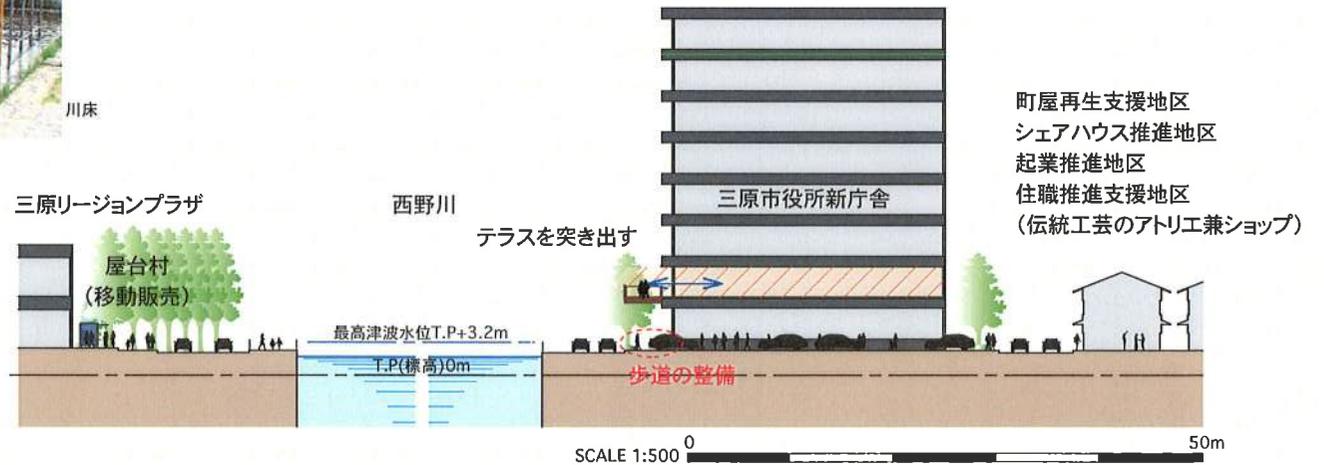
川沿いを散策できるよう新庁舎-臥龍橋間の歩道を整備  
リージョンプラザ側への回遊導線を創出



新庁舎(8階建)は、三原港の軸線上のフォーカルポイント(注視点)となる。  
その足元に川に背を向けない環境デザインを投入。人があつまる仕掛けをつくる



川床



「市で一番高品位な通りづくりを目指す」



リージョンプラザに歩行者専用道をつなげ回遊性の向上

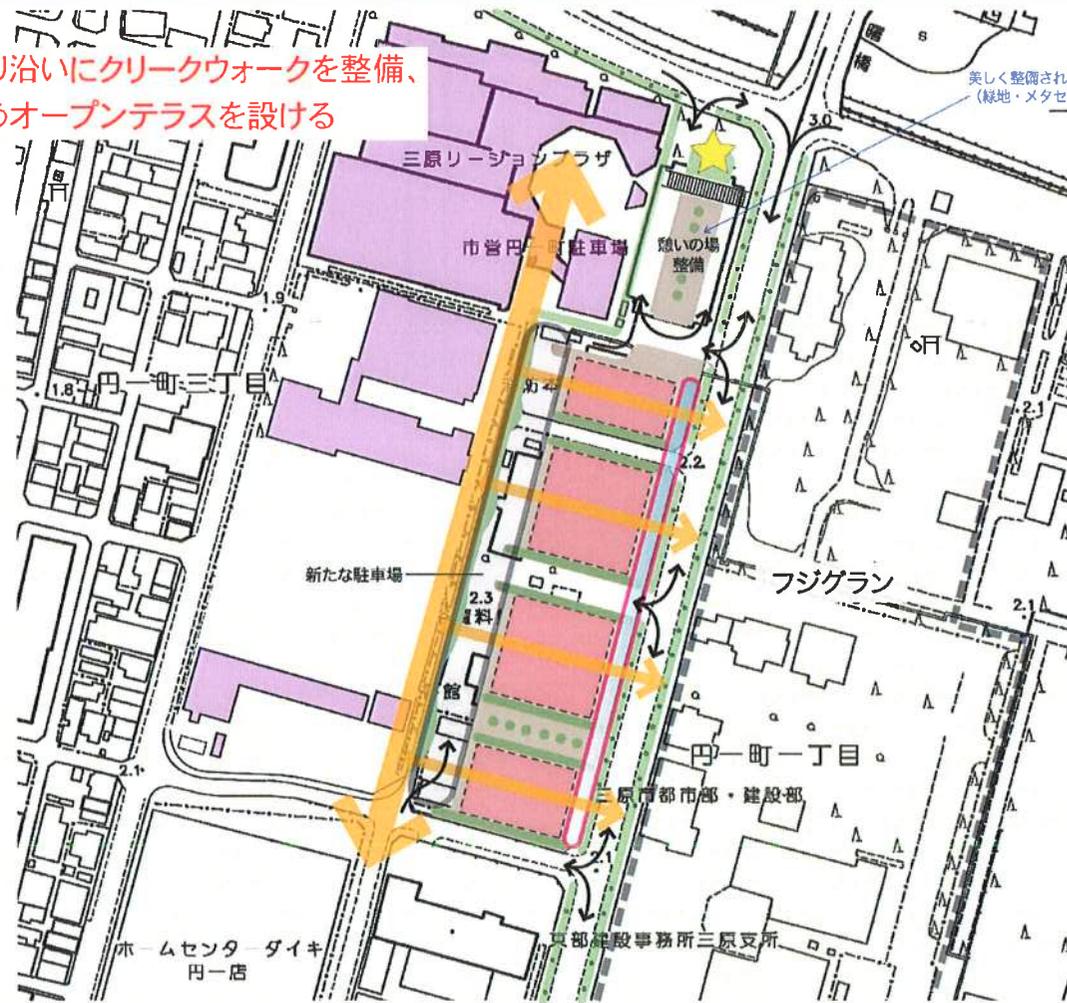


学童が安全・安心して通学できる歩行者専用道の導入



老朽化した施設を撤去、複数筆の敷地をひとつにまとめ、ランドデザインを導入する。一体化させることで景観のコントロール/裏動線としての車道/駐車場の効率化/高品位な通りをめざす。

駐車場を裏に回し、表通り沿いにクリークウォークを整備、  
親子・家族、来訪者が憩うオープンテラスを設ける



美しく整備された並木通りのPRゲート  
(緑地・メタセコイア・花壇・東屋)

- ・歩車分離
- ・屋外アートによる共通コード

〈概定MD〉 ※隣接施設からの集客=主婦目線で構成

- ・オーガニックマルシェ
- ・予備校
- ・クッキングスクール
- ・塾、カルチャーセンター
- ・カフェ・レストラン
- ・スイーツショップ
- ・ギャラリー、アトリエ
- ・大型専門店
- ・アウトドアショップ

世代間交流を促進させるため、  
並木通り側を解放し、クリークウォークを導入。  
「水と共にある生活」をPR

- : 既存建物
- : 新築計画建物
- : 歩行者専用
- : 車専用
- : グリーンベルト
- : クリークウォーク
- : フォーカルポイント (注視点)  
例/モニュメント・アート・サインなど
- : VIEW





改修した旧家をアートイベントに活用

小さな路地に歩く楽しさ見出す

三原は多くの寺社が現存している



整備後イメージ



街並みに調和する舗装とサイン



地域独特の素材や色の積極的活用



市民と一緒にできることから始めよう。  
シェアハウスやリノベーション例を公開することも



船入櫓は、通りから奥まった場所の為来訪者は限られている。

マリンロードは、活気が失われつつある

案内サインと由緒解説を追加

水深の浅いせせらぎによる演出



整備後イメージ



通りの両側に小さな水の流れを導入した改善例



市民が参加する水質改善（かいぼり）



美しい鯉で人を呼ぶ

